

魔法の wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：高橋 和秀（葦山 聡志・五十嵐 匠） 記録日：2020年2月16日

キーワード：移動支援、コミュニケーション、要求表出、見通し、自己肯定感、自己決定、観察

【対象児の情報】

- ・学年 高等部3年生
- ・障害名 脳性麻痺、四肢体幹機能障害
- ・障害と困難の内容
 - ・自分で車椅子を操作することができるが、気になることがあると止まってしまうことがある。
 - ・自分で選ぶことがほとんどなく、黙ってしまうことが多い。
 - ・答えを求められる質問に対してうまく答えられず、「はい」と答えてしまうことがある。

【活動進捗】

当初のねらい

- ・安全確認をしながら、自分の行きたい場所へ行く。→**取り組み①**
- ・自分の置かれている状況を踏まえて、「お願いします」を伝えることができる。→**取り組み②**

実施期間 2019年5月～2020年1月

実施者 高橋和秀

実施者と対象児の関係 現在は隣のクラス担任であるが、今年度の生徒担当と協力してかかわっている。

(対象生徒の高1年時の担任)

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

取り組み① についての実態

○学校に通うことが好きで、毎日登校している。

○特定の教員や友だちを意識している。名前を言ったり、指差ししたり、近くへ移動したりすることがある。

【身体の動き】

○手膝這いで目的の場所まで移動することができる。

○自分で車椅子を操作して、目的の場所まで行くことができる。

※△途中で知っている教員や友だちに会ったり、気になることがあったりすると、集中力がなくなってしまう、動きが止まってしまうことがある。

【感覚・認知】

○お金を自動販売機やレジで支払うことは学習している。

○数字は1～9まで数えることができる。

△ひらがなの練習をしている。かなと具体物のマッチングをしているが覚えられない。ひらがな、アルファベット、漢字など、「文字」という認識はある。

取り組み② についての実態

【感覚・認知】

○苦手な食べ物を伝えることができる。(豆、パン、ポタージュスープなど)

○学習の見通しがもてると、意欲的になる。

○日常生活では、周りの人の話を聞いて理解している部分も多く、笑ったり、頼み事をされると「やだ」などと答えたりすることがある。

△自分で選ぶことがほとんどなく、黙ってしまうことが多い。

【コミュニケーション】

○日常の言葉を理解していて、指差しや身振り、発声等でコミュニケーションをとることができる。

○できないときには「お願いします」の発声で助けを求めることがある。

△できないときに「お願いします」と伝えることがあるが、意欲が低い時に「お願いします」を言うことがある。また、意欲が高い時には、できなくても自分で試行錯誤しながら取り組もうとする。

△受け身なところがあり、何もしないで時間が過ぎることがある。

△答えを求められる質問には答えられない。また、どのような問いかけにも「はい」と答えてしまい、会話が成立しないこともある。

△他の友だちとはかかわりが少なく、教員とのやりとりが多い。

【ICT 機器】

OiPad の操作に関しては、いつも使う「ひらがな」等のアプリの操作は一人で扱うことができる。不意に操作ミスをしてしまうと、動揺して固まってしまうこともある。

○新しい機器に興味があり、アプリ「アレクサ」、「YouTube」など自分で操作しようとする。

△キーボードで文章を打つことはできない。

【保護者の願い】

- ・特定の人だけでなく、自分の意思を周りの人に伝えられるようになってほしい。
- ・サイン、言葉、コミュニケーションツールが使えるようになってほしい。
- ・危険の認知が分かるようになってほしい。

※○は対象生徒の長所、得意なところ ※△は対象生徒の困りの要因

・活動の具体的内容

取り組み①安全確認をしながら、自分の行きたい場所へ行く。

自分で好きな場所へ出かけて行動したいが、自分で移動するときには、車椅子で段差から落ちそうになったり、人とぶつかりそうになったりすることがあったため、自分で移動する行動を制限され、教員が車椅子を押して移動することが多くなった。卒業後を見据えて、自信をもって行動するには、安全確認をしっかりと行って行きたいところへ出かける経験を積むことと考えた。

【仮説】

安全確認をしていくことで、自分の行きたいところへ出かけることができるのではないか

そこで、生徒が意欲的に活動できる「自動販売機で買い物しよう」という学習活動を取り入れることとした。（5月～7月までの間に課題別学習の時間に5回実施。）

【ICT 活用】

- ・Keynote で自動販売機までの経路を確認する。
- ・iPad の DropTalk でどんなことに気を付けて出かけるか確認する。
- ・教員と一緒に金額の確認をする。
- ・カメラで行動の様子を記録する。



図1 車椅子で自走する様子

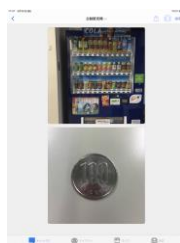


図2 買い物練習

安全確認をする場所

スロープ	段差	階段	扉	せまい道	自動販売機
斜面のため、上がり切れない可能性がある。	段差で落ちてしまう可能性がある。	小学生が飛び出してくる可能性がある。	扉を開けられない可能性がある。	壁にぶつかる可能性がある。	お金を落としてしまう可能性がある。



図3 安全確認スライド



図4 ぶつかるイメージ

それぞれの場所で、安全確認を行っていく。うまくできなかったときには、振り返りをして担当教員からアドバイスしてもらった。

「行動のチェックリスト」と「行動のチェックシート」を活用して、生徒の行動の変容を分析した。

評価点	支援量による評価基準
5	一人のできる
4	部分的な声かけ支援があると一人のできる
3	部分的支援（視覚的・身体的）があるとできる
2	全面的な支援（声かけ・視覚的・身体的）があるとできる
1	全面的な支援があってもむずかしい

表1 行動のチェックリスト

観点	課題項目	評価
車椅子での自力走行	自分でホイールを動かしてこく	5・4・3・2・1
	まっすぐ進む	5・4・3・2・1
	方向を変える	5・4・3・2・1
	止まる	5・4・3・2・1
	スロープを上る	5・4・3・2・1
	ドアを開ける	5・4・3・2・1
	狭い通路を進む	5・4・3・2・1
	集中して進む	5・4・3・2・1
自動販売機での買い物	お金の種類が分かる	5・4・3・2・1
	お金を取り出す	5・4・3・2・1
	お金を入れる	5・4・3・2・1
	飲み物を選ぶ	5・4・3・2・1
	ボタンを押す	5・4・3・2・1
	飲み物を取り出す	5・4・3・2・1
	おつりを取り出す	5・4・3・2・1

表2-1 行動のチェックシート

・対象児の事後の変化

安全確認に対して、次の変容を確認。(5月→10月)

	5月	6月	7月	10月
スロープ	自力で上ろうとするが、ホイールを回せずカギでしよう。	斜めになってしまうことがあり、バランスを崩してしまうことがあった。	腕力がついてきて、まっすぐ上るようになってきた。	まっすぐ上っていた。
階段	小学生が飛び出して来る予測地点では、そのまま素通りする。	声かけすると、飛び出し予測地点では、スピードを緩めるようになった。	飛び出し予測地点では、スピードを緩めるようになった。	飛び出し予測地点では、スピードを緩めていた。
段差	段差で落ちることはないが、あまり気にしていない様子。	見渡してから通るようになった。	「だんざ」と声を出して通るようになった。	確認をして通っていた。
扉	自分で開けようとするが、戸が閉まってしまう。	取っ手をしっかりと握ることで、自分で開けて、閉まる前に手で押さえる。	取っ手をしっかりと握り、体を扉の間に押し込ませていた。	何度かチャレンジして開けることができた。
せまい道	壁にぶつかってしまい、動けなくなった。	壁にぶつかる前に、教員に「お願いします」と伝えるようになった。	壁にぶつかってしまい、動けなくなった。	狭い道でも通り抜けるようになった。
自動販売機	お金を落としてしまった時に、別のお金をいれようと財布から取り出した。	お金を落としてしまった時には、教員に「お願いします」と伝えるようになった。	お金を落とさず、飲み物を買うことができた。	教員のリクエストを確認して飲み物を買うことができた。

表2-1 行動のチェックシートでの変容では、車椅子での自力走行に関して評価が上がっている箇所が見られた。

(7)に関して、安全配慮のため、部分的な支援が介入することがあった。

車椅子が通りやすいように通路の確保を行った。



図5 自動販売機で飲み物を買う様子

表2-1 行動のチェックシートでの変容を確認。(5月→10月)

観点	課題項目	評価(5月)	評価(7月)	評価(10月)
車椅子での自力走行	(1)自分でホイールを動かしてこぐ	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(2)まっすぐ進む	5・④・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(3)方向を変える	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(4)止まる	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(5)スロープを上る	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1
	(6)ドアを開ける	5・4・③・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1
	(7)狭い通路を進む	5・④・3・2・1	5・4・③・2・1	5・④・3・2・1
	(8)集中して進む	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1

【活動を行って】

- ・取り組みを繰り返すことで、それぞれの安全に気を付ける場所での行動に変化が表れてきている。
- ・安全に移動することへの安定感が増してきている。
- ・扉を開けることについては、本人の工夫により意欲的に行っていることから期待できる。
- ・自分で選んだお茶は、5回中5回間違えずに買うことができた。

(100円を入れたときに点滅するボタンの場所を覚えた。)

・飛び出し予測地点など、スピードを落としたり、周りの様子を確認したりするなど慎重に進む姿が見られた。繰り返していくうちに、5月には自力で進むことが難しかった箇所をクリアできるようになってきた。安全確認をしてきたことで、どうすれば一人で行けるか考えるきっかけとなり、行動に現れるようになったと考え

られる。また、自動販売機までの道のりへ到達する時間が短くなったり、飲み物を買う時間にゆとりができた
りしたことで自信がついてきたようにうかがえる。

取り組み②「お願いします」を伝える。

これまで学校生活では見通しをもって活動してきているが、周りの教員がサポートする中でコミュニケーションをとってきている。今後は社会に出る際にいろんな人と会話したり、要求を伝えたり、助けを求めたりする場面が必ず出てくる。社会へ出る際に、自分の気持ちや要求などを伝えることができないと困ることになるとは気づいていない。言葉で「お願いします」を伝えることも大切だが、必要に応じて伝える方法が分かれば本人も伝えやすくなるを考える。

【仮説】「お願いします」を伝える手段が増えたら、適切な支援を受けられるのではないかと

そこで、生徒の日常生活において、どのような場面で「お願いします」が出るのか確認した。
(5月～7月までの間に課題別学習の時間に5回実施。)

【ICT 活用】

- ・場面指導で「こういう時は何て言うのかな？」と振り返ることで「お願いします」が言えるように促していく。

言葉で「お願いします」を指導すると「お願いします」と自分で言葉にすることができる。しかし、実際の場面では、とっさに声に出せないことが多い。スライドで場面を振り返り、「お願いします」の定着を図る。自分でやってみて、どうしてもできないときに、Droptalkで「お願いします」のシンボルを活用する。マッチング、音声の聞き取りなどを促して、自発的に伝えられるようにしていく。

- ・日常生活の中で「お願いします」を適切に使う場面を確認する。

日常生活での想定される場面としては、『移動』、『学習準備』、『給食』、『作業』、『課題別学習』が考えられる。

評価点	支援量による評価基準
5	一人のできる
4	部分的な声かけ支援があると一人のできる
3	部分的支援（視覚的・身体的）があるとできる
2	全面的な支援（声かけ・視覚的・身体的）があるとできる
1	全面的な支援があってもむずかしい

表1-2 行動のチェックリスト

「お願いします」と伝える	困った表情をする	⑤・4・3・2・1
	「お願いします」を身振り・発声などで伝える	⑤・4・3・2・1
	「お願いします」を言える	⑤・4・3・2・1
	困ったときに、「お願いします」を伝える	5・④・3・2・1
	ICT 機器を操作して「お願いします」を伝える	5・4・③・2・1

表2-2 行動のチェックシート

・対象児の事後の変化

『移動』では、これまで教員が主に介助して移動していることが多かったが、自分で移動するようになり組んだ。すると、5月以降「お願い」を伝えることがあった。何度かチャレンジしてできなかったときに、「お願いします」を伝える場面が見られた。

→取り組み①の学習で、自分でできないところが確認でき、伝えるようになったのではないかと

自分ではできないことに気づいて、お願いすることでのスムーズに活動できることが分かった？

『学習準備』では、登校時の集中具合によって、自分でこなせていることもあるが、カバンから荷物を出せないときや落としてしまった時など「お願いします」を伝えることがあった。

→苦手意識があったり、集中できなかつたりすることに左右されることもあるのではないかな。

『給食』では、苦手なメニューの際に、「お願いします」が出てくることが多かった。苦手な食べ物を減らしてほしい、お皿に集めてほしい、などの場面が見られた。

→好きな和食では、ペースも早く完食していることが多いことから、洋食の場合のお願いが多く見られる？

『課題別学習』では、教材の補充やできた時の確認の際に「お願いします」と伝えている。

『お昼休み』に友だちに会いたいことから、教員についてきてほしいとお願いすることがあった。

→係の仕事やお昼休みの過ごし方によって、友だちと会う機会が減っていたが、「友だちのところへ行きたいので・・・」+「お願いします」が伝えられるようになってきた。友だちのところへ iPad を持って行きたいことを伝えることで、iPad の準備を手伝ってもらい、自分で音声吹き込んだ Droptalk で作った絵本を紹介することができた。

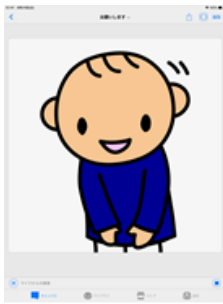


図6 Droptalk で、「お願いします」



図7 友だちと一緒に本を読む。

【報告者の気づきとエビデンス】

取り組み①について 主観的な気づき

- ・自分で安全を確認することが増え、行動の幅が広がってきた。

【エビデンス】保健室やホールなど行きたい場所は、教室から離れているため、時間がかかっていたが、10月に電動車いすへ乗り換えたことで、操作性が向上したことで自動販売機までの移動時間の短縮、スロープ、ドアなどの対応がスムーズになった。また、保護者からは、生徒が電動車椅子を操作していても疲れにくくなったとの感想もあった。

校内での自動販売機での買い物は定着してきたので、校外への行動へと試みることにした。商店街までの道のりを、電動車いすで移動したときには、歩道の傾きなどに気を付けながら進むことができた。

また、現場実習へも電動車椅子で参加するようになり、仕事への意欲を見せていた。

自動販売機で自分の飲み物を買うときには、事前に決めている「お茶」を買っていたが、教員のリクエストに応じて買い物をするようになった。生徒に「お金」「色」「大きさ」などを伝えることで自動販売機の中から選び出して買うことができた。

観点	課題項目	評価（11月）	評価（12月）	評価（1月）
電動車椅子での走行	(1)電動レバーを操作する	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(2)まっすぐ進む	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(3)方向を変える	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(4)止まる	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(5)スロープを上る	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(6)ドアを開ける	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1	⑤・4・3・2・1
	(7)狭い通路を進む	5・4・3・2・①	5・4・③・2・1	5・4・③・2・1
	(8)集中して進む	5・④・3・2・1	5・④・3・2・1	⑤・4・3・2・1

表 2-3 行動のチェックシート（電動車椅子）



図 8 電動車椅子での練習



図 9 現場実習

取り組み②について 主観的な気づき

「お願いします」を言えるように行動の振り返りを行って、自分でできることが増えてきた。

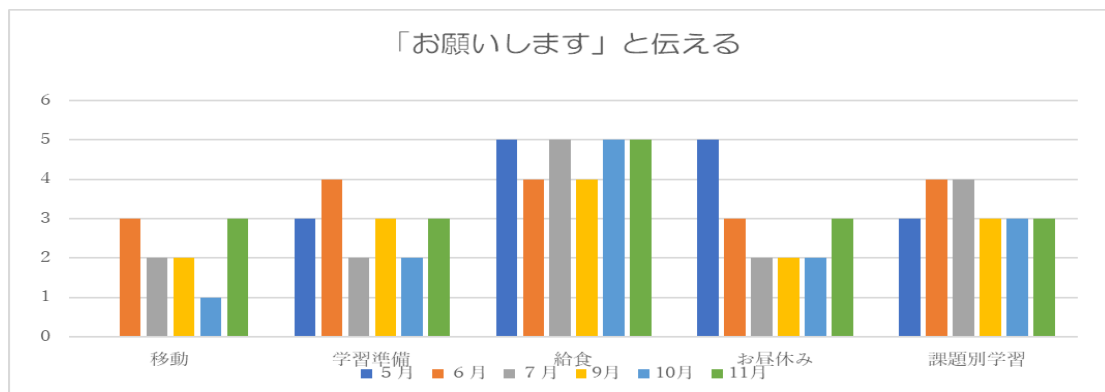


図 10 「お願いします」を伝えるグラフ

【エビデンス】

「お願いします」を伝えることができたが、次の場面では、自分で行おうとするようになった。

「お願いします」が言えたら「OK」と考えていたが、「お願いします」をいうよりもスキルがアップしていくことで、自分でできることが増えてきて、褒められることもあり、生徒にとってやる気になる環境になっている。

教室で手を洗った時に、タオルを出し忘れてしまい、「タオル、ない。」と教員に伝えていた。その際、「そういう時は何て言うの？」と促すことで、「お願いします」と伝えることができた。

→ 普段は手を洗えば近くにタオルが手元にあるので「お願いします」は必要なかったが、イレギュラーな状況には、「お願いします」よりも状況を伝えることが優先されたと考える。

手洗いに関しては、トイレの洗面台を使用する際には、一人でできるようになった。



図 11 手洗い場面